

# 東洋大学福祉社会開発研究センター News Letter

2022\_Vol.1

福祉社会における新たな価値の創発と支援システムの構築

## INDEX

- ◆ 第5期の重点研究推進プログラムの研究概要 . . . 1
- ◆ キックオフミーティングの開催 . . . 2
- ◆ 各研究ユニット・グループの様子 . . . 3
- ◆ 報告とお知らせ . . . 5



### 第5期の重点研究推進プログラムの研究概要

**新**しく2022年度から始まる第5期のテーマは、「福祉社会における新たな価値の創発と支援システムの構築」となります。これまでセンターが行ってきた研究の蓄積をさらに発展させ、「相互承認 (mutual recognition)」の価値を理論的に探究し、ICT、IoT、ロボット等の科学技術を活用する先駆的な社会福祉実践を検証し、福祉社会に求められる新たな支援システムを構築することを目指しています。

この目的を達成するために、理論研究、実践研究、開発研究の3つのユニットを構成し、それぞれのユニットが、以下の側面から専門的知見に基づいて研究を推進し、同時に相互にフィードバックし合いながら、福祉社会に求められる新たなシステムを追究していきます。

- 相互承認の価値を理論的に探究する
- ICT、IoTやロボット等を社会福祉実践に適用し、支援システムを構築する
- 新たな価値を共有するIoT、ロボット等の科学技術を改造・開発する

本研究では、新たな福祉社会を成立させる新しい「価値」を理論的に探究し、その「価値」を具現化するための支援システムをSociety 5.0に見合うロボットの活用、ICT、IoTといったテクノロジーで加速させ、福祉実践のイノベーションを実現し、最終的には、社会的なつながりを創出する新たな支援システムを提起したいと思います。



志村健一センター長



## キックオフミーティングの開催

**昨**年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染蔓延防止の観点から、本センターの研究活動は、オンラインによる研究活動を取り入れ、安全に配慮した研究活動を行っています。

今年度のスタートとして、4月24日(日) 15:00~17:00にキックオフミーティングが開催されました。第5期最初のキックオフミーティングということで、本センターの研究分担者、客員研究者らがオンライン上で一堂に会しました。開催内容は、2022年度の研究体制、予算、各ユニット・グループの研究活動計画についてです。

今回のキックオフミーティングで、特に強調されたのが、各ユニット・グループでの協働です。例えば、理論研究ユニットでは、「相互承認 (mutual recognition)」という概念の文献学的検討が中心的な課題となりますが、福祉実践の現場・臨床における類似した概念(愛着、所属感、住民同士の協働・信頼など)からのフィードバックによって、その価値の現代的意義といったものをより深く考察することができるといったことがあり得ます。

他方では、福祉実践の現場・臨床におけるさまざまな課題を、開発研究ユニットにフィードバックすることで、そうした課題を解決できるICTやIoT、ロボット等の科学技術の開発につなげていくといったこともあり得ます。

昨年度までの研究においても、上記の点は意識されてきましたが、第5期ではより一層明確にこの点を意識した研究が求められることが改めて確認されました。特に社会福祉学を基礎とする本センターでは、当事者の方々の権利を実現するためには、人々の幸せを実現するためには、その中で研究がどう展開すべきか、どう協働すべきかといったことをないがしろにするわけにはいきません。より多くの人に貢献できるような研究実践の構築もまた本センターの役割であることも再確認されました。また、アジアの社会福祉学のハブとして、東洋大学、ひいては福祉社会開発研究センターがどのように活動していくかも視野に入れる必要性も指摘されました。

今回のキックオフミーティングでの報告・議論を通して、今後の研究の方向性がより明確になったように思います。



2022年度 重点研究推進プログラム

福祉社会における  
新たな価値の創発と  
支援システムの構築



## 各研究ユニット・グループの様子－地域福祉グループ

**5月** 2日(月) 10:00~12:00  
に地域福祉グループ第一回研

究会が開催されました。研究会では第一回目ということで、「年間スケジュール確認」、「調査内容及び方法等」についての共有と検討を行いました。

具体的に「年間スケジュール確認」では加山グループ長作成のスライドと年間スケジュール資料をもとに今年度のグループ全体とグループでの研究計画・研究事務局体制について確認しました。定例研究会の開催時期と頻度として、基本的に隔月一回のペースであること、報告者視察・出張予定、時期は可能であれば二回行う旨の話があり、6月後半以降に福島を視察予定であることなどについて報告がありました。

「調査内容及び方法等」については、まず量的調査の継続について早坂研究分担者からの報告がありました。昨年度の調査を発展させていくため、事業所内部のICT調査だけでなく地域に向けた視点もあった方が良かったことが指摘されました。また、継続調査のデザインしていく上で、地域における公益的な取り組みにおいてICTやソーシャルメディアをどのように活用していくかに関して質問項目を考えていくことも必要であることも指摘がありました。

質的(FGI調査)では洪研究分担者、大洞客員研究員より今年度、第二回調査を計画しており、地域における公益的な取り組

みがどのように行われているのかを継続して追っていくことの報告がありました。

その他、地域福祉グループの全体的な方向性として下記の内容の話し合いが行われました。

- 「相互承認」のキーワードから、地域福祉の観点から住民間、活動者同士の承認のあり方を考えていく
- 社会福祉連携推進法人に関するパイロットスタディについても今年度の研究会で取り組んでいく

地域福祉グループの大きな研究の柱として「社会福祉連携法人」「地域公益的な取り組み」「ICT」というテーマが別々の研究になるのではなく、「地域と人材をいかに支え得る仕組みづくりができるか」等、人材と地域という柱を一本立てて、人とICT、メゾレベルでの地域などのつながりを見出し、相互承認と結び付けられる中間的な概念を出した方が良いのではないかと議論が行われました。人材不足の解消ではなく、QOLや援助の質の向上が本旨であるため、地域福祉分野で法人のICT化が地域のメリットになるようなあり方をさぐっていくという方向性が共有されました。



## 各研究ユニット・グループの様子－理論研究ユニット

**6月** 6日(月) 10:30~11:30、16:30~18:30に理論研究ユニットの対象論グループと歴史・原理グループの第1回研究会が開催されました。

対象論グループでは、荻野剛史研究分担者が「介護施設における外国人介護士にまつわる課題分析」と題する発表を行いました。実質的な外国人労働者の導入が始まってから30年以上が経過してなお、課題が山積していること、特に介護領域では在留可能期間を満了することなく帰国する外国人介護士が続出していること、外国人介護士のためのICT活用の現状と課題などが報告されました。こうした課題を改善していく

ためには、帰国の理由を手寧に拾い上げることや外国人介護士の導入プロセスを明らかにすることが必要になると指摘がありました。

歴史・原理グループでは、門下祐子客員研究員が「知的障害児・者の『性の権利』尊重のための教育および支援に関する研究」と題する発表を行いました。知的障害のある子どもが通う特別支援学校での性教育、就労継続支援事業所での性支援の実態などについて報告がありました。知的障害のある人の性教育や性支援に関しての研究は、日本では十分に取組みられておらず、今後の実践に対してさまざまな示唆を得ることができました。



## 各研究ユニット・グループの様子－障がいグループ

**6月** 17日(金) 17:00~19:00に実践研究ユニットの障がいグループの第1回研究会が開催されました。

高野聡子研究分担者が「特別支援教育における分身ロボットの利活用の可能性」と題した発表を行いました。特別支援教育制度やそうした制度の枠組みの中で、分身ロボットOriHimeをどのように活用していくことが可能かについて、先行研究を踏まえ

た説明が行われました。

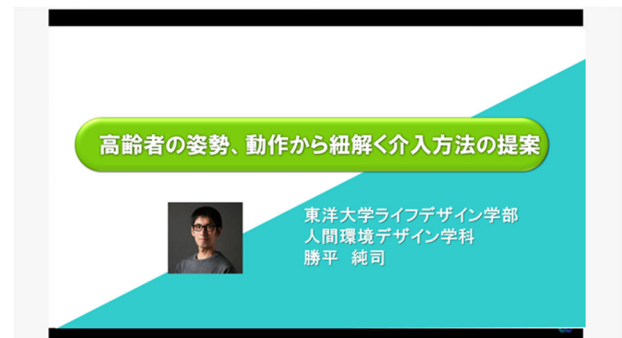
福祉社会開発研究センターでは、株式会社オリィと研究協定を結び、同社の分身ロボットOriHimeを用いた研究を進めていく予定になっています。ここでは開発研究ユニットの横田祥研究分担者と連携し、現場の声を生かしたOriHimeへの改造と実践へのフィードバックという壮大なプロジェクトが進行中です。



## 各研究ユニット・グループの様子－高齢グループ

**7月** 18日（月）にWebex Meetingsを用いて、実践研究ユニット高齢グループの第1回研究会『高齢者の姿勢、動作から紐解く介入方法の提案』が開催されました。勝平研究分担者より、1）住環境整備が高齢者の姿勢や動作に与える影響、2）自身で開発した装着型機器が高齢者の姿勢に与える影響、3）高齢者の姿勢とロコモ度の関係、4）今後どのように高齢者の姿勢にデザインを用いて介入をしていくのかについて説明がなされました。また、これらの研究を通して「誰

もが健全な姿勢を身につけられる社会」を目指しています。本研究会では、医療関係者など、24名が出席し、活発な意見交換が行われました。



## 報告とお知らせ

- ◆ 7月、志村センター長が応募していた科研費が採択されました。挑戦的研究（開拓）で、5年間の計画となります。タイトルは「福祉社会における新たな価値の創発と支援システムの構築」で、当センターも協働して研究を進めてまいります。  
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K18260/>
- ◆ 第5期の情報は、随時HPにアップロードされます。第5期の研究体制などの情報については、以下のHPをご覧ください。  
<https://www.toyo.ac.jp/research/labo-center/cdws/>
- ◆ **9月25日（日）9:00-12:00**に当センターの前期シンポジウムを予定しております。詳細が決まり次第、情報をHPにアップロードしますので、ご確認ください。



## 発行：東洋大学福祉社会開発研究センター

- ◆ 〒112-8606  
東京都文京区白山5-28-20
- ◆ E-mail : [cdws@toyo.jp](mailto:cdws@toyo.jp)
- ◆ TEL : 03-3945-7504